



# ぞうえん山梨



(社) 日本造園建設業協会の助成を受け、駿台甲府小学校の校庭芝生工事が完成しました。芝生化された校庭の開放式後、児童たちは芝生と触れあい、元気良く遊びました。(詳細は4ページ)

- ごあいさつ .....2頁
- 協会の動き .....3~5頁
- コラム「新たな公園価値の確立」 .....5頁
- 組合の動き・協会員・組合員めぐり .....6頁

- 青年部の活動 .....7頁
- 平成21年度組合自主事業 .....8頁
- 山梨緑化センター .....9頁
- 表彰等 .....10~11頁
- 会員名簿 .....12頁

**(社) 山梨県造園建設業協会・山梨県造園建設業協同組合**

E-mail ● info@zouenkyo.ecnet.jp  
U R L ● http://www.zouenkyo.ecnet.jp

E-mail ● zouenkyo@wonder.ocn.ne.jp

これまで建設産業界の発展を支えてきた公共事業の大幅減少により、我々造園建設業界は誠に厳しい局面に立たされております。しかし、私は、我々業界の将来は、決して明るい未来がないわけではないと考えています。それは、やり方次第、工夫次第ではまだまだ成長の余地ある産業だと思っております。

地球環境問題が深刻さを増す中、我々の業務は、緑の環境創出や自然環境対策を具現化するものとして、社会的にも大きな関心と期待が寄せられている分野であります。加えて造園建設業は、人間にとって真に心地よく、美しく、快適な環境と景観を創出するという大事な機能を有した産業であります。我々の業種はこうした長所を有しています。この長所をいかに活かし、そのためにはどんな工夫をしていくか。それが今後の我々の大きな課題であります。

こうした折り、私たちが普段から食し、県民なら誰でも知っている「鳥モツ煮」が、B級ご当地グルメの祭典でゴールドグランプリに輝き、地域の活性化にも繋がったという快挙は、我々造園建設業界の落ち込み状況を打破するための貴重なヒントを与えてくれているように思えます。ちょっと視点を変えてみたり、新たな視点を導入したりして、みんなで知恵を出し合って工夫をしていくことの重要性を教えられたような気がします。

本県には我々がまだまだやらなければならないことや、発掘されるべき業務があるはずで、私はそのキーワードが「景観形成」であると考えております。近年、富士山を目当てにやって来る外国人観光客が増加していますが、富士山人気に継続性を持たせて行くためには環境、景観の創出が不可欠であります。また、甲府駅周辺地域の修景、さらに里山・耕作放

棄地の再生などにおいても、景観形成という視点が極めて重要な要素となります。そこで本年は、「生き物・緑」を扱う唯一の建設業種である我々は、ランドスケープアーキテクトとして必要不可欠の存在である、ということに関係機関をはじめ広く県民に訴えていきたいと考えています。

さて、昨年当協会では、県が推進している“やまなしの森づくり”に共鳴して「ぞうえん山梨きづかいの森」の森林整備作業を実施しました。また、地球温暖化防止等様々な効果を發揮する校庭芝生化促進事業として、駿台甲府小学校において校庭芝生化モデル事業を実施致しました。さらに、日本芝草学会秋季（富士吉田）大会に全面協力し、校庭芝生化部会においては、「山梨県内での取り組み」と題した発表等も行いました。そして全国都市緑化フェアの山梨県開催の実施に向けた関係機関への要望活動を行う一方で、奈良県で開催された「第27回全国都市緑化ならフェア」への視察研修を実施しました。

今後もこうした社会貢献活動はもとより、技術の向上、知識の修得に努めて参ります。また、当協会を広範な知識をもった組織とするため、賛助会員を幅広く募集していきたいとも考えています。さらに定期的に意見交換会を実施して、密度の濃い情報の共有化を図って参るよう努めて参る所存であります。

最後になりましたが、こうした活動が円滑に推進するよう協会の皆様及び関係者の皆様のなご協力、ご支援をお願い申し上げます。



我が国及び本県経済は緩やかに回復しつつあるとは言えるものの、このところの円高推移など予断を許さない状況が続いています。

我々造園建設業を取り巻く環境を眺めてみますと、公共事業の激減という中、民間需要の足取りも重く、それぞれの組合員企業におかれてはますます厳しい対応を迫られるものとなっております。当組合においても昨年度は、竜王駅南口広場のケヤキ植栽などの受注があったものの、本年度はこうした業務も皆無という状況で推移しています。しかし、私たちは厳しい環境だからと言って、手をこまねいている訳には参りません。組合員が一致団結してこの難局を乗り越えて行かなければなりません。

さて、CO2排出をはじめとする環境問題は、地球的規模での対応が迫られており、改めて緑の重要さが認識されております。こうした中、我々の仕事はまさに時代が求めている業務であり、今後ますます重要性を増してくることは間違いがありません。しかし、現在のところ環境問題も、なかなか我々の追

い風とはなってくれてはいません。我々は今後、行政の指導を頂きながらよく行政と連携し、造園工事の重要性を広く県民に訴えていく必要があります。同時に、自らの技術力のさらなる向上に取り組まなければなりません。

次に、山梨県緑化センターにつきましても、今年は二期目の指定管理者として3年目を迎えることとなります。県のご指導を賜りながら、新しい社会の要請に応じた管理運営と緑環境教育の拡充を図り、本県の緑化推進に一層の貢献が果たせるよう努めて参る所存であります。

最後になりましたが、皆様方のご健勝、ご発展を祈念するとともに、今後とも、組合や緑化センターの運営にご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



## 協会の動き

### 平成22年度 通常総会(予算総会)開催

平成22年3月26日(金)午後3時から、当協会会議室に於いて、出席会員35名、うち本人出席22名、委任状による代理出席4名、表決会員9名を得て平成22年度通常総会(予算総会)が開催された。仲村清輝理事が司会を務め、石原政人副会長の開会のことば、斉藤陽一会長の挨拶があった。その後、須田良英理事が議長に選任され直ちに審議に入った。第1号議案平成22年度事業計画(案)、第2号議案平成22年度収入・支出予算(案)を一括審議することとし、事務局説明の後、質疑に入ったが異議なしとして満場一致で可決承認された。続いて第3号議案慶弔規程の改正についてが提案されたが、異議なく承認された。



### 平成22年度

#### 第34回通常総会(決算総会)開催

平成22年5月21日(金)午後3時から、当協会会議室に於いて、出席会員35名、うち本人出席26名、委任状による代理出席者5名、表決会員4名を得て平成22年度第34回通常総会(決算総会)が開催された。依田忠理事が司会を務め、石原政人副会長の開会あいさつに続いて、斉藤陽一会長のあいさつがあった。その後、協会表彰規定に基づき造園功労者2名(山本浩司氏、横田広氏)に会長から表彰状が贈呈された。引き続き、来賓の山梨県県土整備部技監山本力様から祝辞を頂いた後、須田良英理事を議長に選任し直ちに議事に入った。第1号議案平成21年度会務報告、第2号議案平成21年度収入・支出決算承認の件は一括審議とし、事務局説明のあと岩田俊彦監事より「適正に執行されている」旨の報告がなされ、満場一致で可決承認された。続いて第3号議案役員を選任の件についてが審議され、新専務理事に進藤敏夫、新監事に若尾和茂が選出された。続いて第4号議案総会議決事項委任の件についてが提案されたが異議なく承認された。

### 全国造園フェスティバル2010事業に参加

日造協主催の「全国造園フェスティバル2010事業」が全国各地で開催されたが、本協会では10月23日(土)、24日(日)の両日、山梨県緑化センターにおいて開催した。同日は、同会場で、山梨県造園建設業協同組合主催の「緑の感謝祭」も開催されたが、この祭に協力する形で参加する一方、同会場にコーナーを設けて啓発普及のチラシや花の種の配布などを行った。



## お知らせ

### 「街路樹剪定士資格更新研修会」

本県におけるこれまでの「街路樹剪定士の資格」取得者は155名に達しており、県内の街路樹の整備等において街路樹剪定士は大いに活躍をしています。

この資格は、近年、発注側にあっても重視する傾向が強まっており、全国各都府県や市町村において街路樹剪定士の常駐や指導、さらに街路樹剪定士の見本剪定実施等の特記仕様書に明記するところが年々増えてきています。

こうした中、当協会では(社)日本造園建設業協会山梨県支部と協力し、平成23年1月18日(火)9時～12時半に資格更新研修会を実施する予定であり、現在その作業を進めています。今回の研修会の対象者は、平成18年度の認定者(有効期限が2011年3月31日の方)となっております。詳細についてお知りになりたい方は、(社)日本造園建設業協会のホームページをご覧ください。

## 「校庭緑化」

私たちは、これまで校庭園庭の芝生化推進に向けて東京農業大学近藤三雄教授の講演会や無償で県内9箇所の園庭の芝生化を行って来ました。

最近、児童・保護者・また近隣の住民が参加しての鳥取方式と呼ばれるポット苗による工法が行われていますが、私たちは、施工場所の面積、現状土壌の構造、



成分内容、利用内容、利用者数等を把握した上で、各々の場所・条件に合った施工方法を提案することで強靱で緻密なターフの育成を成し、利用者に満足感を与え、また雑草の進入を低減するなどの効果も加わり「いい芝だね」と言われるものを目指し、日々活動を行っています。

今回、駿台甲府小中学校のご協力のもと、校庭の一部1000㎡をティフトン芝の蒔芝工法で実施致しました。表紙の写真でも紹介したように、元気で走り回る児童の笑顔を見た時は、今後も校庭園庭の芝生化推進を普及していく必要があると実感しました。また、10月29・30日に行われた「日本芝草学会 秋季大会」校庭芝生部会でも講演致しました。

(この事業は、日本造園建設業協会関東甲信総支部の補助金にて実施致しました。)

## 日本芝草学会(秋季大会)への参加

平成19年より(社)山梨県造園建設業協会は校庭芝生化を推進してきました。これをうけ、志を同じくする日本芝草学会2010年度秋季大会が、10月29日・30日に山梨県で開催されました。当協会では平成20年に、日本芝草学会の当時の会長でありました、東京農業大学近藤三雄教授をお呼びしての講演会を行って以来協力関係にある団体であります。

29日はホテルハイランドリゾートにて講演会後、関係者による懇親会が盛大に行われ、当協会からも10名出席しました。

30日は昭和大学富士吉田キャンパス(5号館522号教室)に於いて、日本芝草学会2010年度秋季(富士吉田)大会が開催されました。その中の公園緑地部会において、山梨県県土整備部 美しい県土づくり推進室の山口室長が「美しい県土づくりの推進について」と題し、景観法の基本理念及び 山梨県の ①景観条例

②「美しい県土づくりガイドライン」 ③公共事業における景観形成 ④景観アドバイザー制度 など景観行政の取り組みについて講話されました。

当協会では校庭芝生部会の事例発表として、「山梨県内での取り組み」をタイトルとして、駿台甲府小学校の校庭芝生化工事の全容を発表しました。



## 山梨県景観アドバイザーの活動報告

本県において景観アドバイザー事業がスタートして1年半が経ちました。地形的変化に富んだ山梨県では自然景観、農村景観、都市景観といった多様な景観によって県土が構成され、それぞれに問題が山積しています。例えば、果樹や水田、里山を含む農村景観においては、中山間地域が多いことからその農地は全国2位の耕作放棄地率であり、高齢化が進んだ地域では農地の維持が難しくなっています。同様に、森林でも手入れの行き届かない山が増え、林床は荒れ、薄暗くなり昔の山の姿ではなくなりました。かつて、人々による手入れが行き届いていた美しい景観を取り戻すためには官民が協力し知恵を出し合うことが必要不可欠となりました。私たち造園業界の経験と技術を活かせる場はこのあたりにもたくさんあるのではないのでしょうか。

造園、緑化に関する景観アドバイザーとして甲府駅周辺整備事業などの街路樹計画や植栽計



山梨県造園建設業協会 景観部門研究員 大塚 広夫

画に関して仕事をしました。これまで公共事業の計画段階において造園、緑化の意見交換というのは少なかったもので、私たち造園業界にとっては新たな一歩です。現在、「高畑町昇仙峡線街路樹計画」に関して定期的に意見交換や助言を行っています。当該路線は7年後の完成を予定しており、地域住民にとっても、県外から観光で訪れる人々にとっても完成が楽しみな路線です。街路樹の候補の選定、樹種の特性などのアドバイス、目線のレベルの植物の検討を行っています。今後は地域住民と会議での意見交換や住民参加型の緑化など新しい取り組みが行われる予定です。これからも引き続き、「美しい県土づくり」の一役を担えるよう造園建設業協会が一丸となり努力していきたいと思っております。

(山梨県景観アドバイザー)

## 「ぞうえん山梨 きづかいの森」枝打ち作業

平成21年8月5日、当協会は増穂町と森林整備協定を締結しました。11月21日に第1回目の枝打ち作業を実施し今回、第2回目の枝打ち作業を、22年10月16日に会員50名が参加して、斉藤会長の挨拶から始まり、作業工程の説明、危険箇所の確認等、安全管理についてのミーティングを受けて作業が始まりました。今回は、山梨県造園建設業協同組合から枝打ち作業用の1本梯子11組を用意していただき、より効率よく、より安全に枝打ち作業が行われました。10年計画で総面積



5.1haの森林整備活動を行う予定です、今回で約1haの枝打ち作業が終了しました。当協会では「やまなしの森づくり・CO2吸収認証制度」に賛同し認証団体になれるよう森林整備に力を注いでいます。山梨県内における企業、団体の森づくりの参加を促進するとともに、より多くの県民が森づくり活動の効果に関心を持っていただけるようPRしながら、地球温暖化防止活動を推進していきます。



## 「全国都市緑化フェア」山梨県開催に向けて

全国都市緑化フェアは、国民の都市緑化意識を高揚させ、また、都市緑化に関する知識を広く普及させることにより、「みどり豊で潤いのある地域づくり」に寄与することを目的に、1983年大阪府で第1回が開催されて以来毎年全国各地で開催されている、いわば「みどりの地方博覧会」ともいえるイベントであります。また、同時に全国都市緑化祭も開催され、これには皇族の方々のご臨席を仰ぎ挙行され地方イベントの中でもグレードの高い位置づけとなっています。さて本県で最近特に注目されることに、富士山を目当てにやってくるアジア諸国の観光客の急増による経済効果と、もうひとつはB級ご当地グルメの祭典で「鳥もつ煮」がゴールドグ



ランプリに輝き地域の活性化に繋がっているという快挙です。この様な状況を継続させていくことが大事であります。その為には全国都市緑化フェアの開催による事もひとつの手段であると提案致します。

具体的に申し上げますと、フェアの会場を各市町村に参画を促した分散型で行い「県民の一体感」を醸成することにより、各市町村の再発見と地場産品の宣伝等の他に「美しい県土づくり」を提唱する本県にとって景観形成の再構築の一助となるものと考えております。全国規模の都市緑化フェアを本県に開催する意義が十分あり、経済効果などを含め計り知れない大きな効果が期待でき、本県経済の起爆剤となることでしょう。

## 第26回都市公園コンクール管理運営部門 社団法人日本公園緑地協会 会長賞受賞

### 『山梨県御勅使(みだい)南公園における新たな公園価値の確立』

御勅使南公園の管理運営を、造園会社が行うにあたり、公園ストックにおける一層の活用方法は何か、ということを探した結果、生活・文化・環境の基盤である“みどり”と共に生きる事業と健全な“こころとからだ”をサポートする事業の推進で新たな公園価値の発掘をすることを基本方針としました。

方策としてストックの有効利用を目指し、管理事務所内のトイレの改修、売店の設置、さらに周辺のオープンテラス化を行うことにより滞在性の確保を計りました。またラグビーグラウンドにおいては、日常芝生管理に高度な専門技術を組み合わせる事によるターフコンディションの持続性確保で、利用日数の拡大が可能になり、他競技の取込みやプロ野球選手を招いた公園でキャッチボール等の多目的利用を行うことにより、グラウンドの有効性が再認識されました。

さらに未利用地だった樹林地に、ジョギングコースを設置して、一般の日常利用のほか、山梨県クロスカントリー大会

の開催や地域アスリートの育成、健康増進の場として役立てています。環境事業では、社員が講師となり、どんぐり課外授業と称して、採集植付けから育苗、植林によって複層林を形成する生物多様性の啓蒙、園芸療法教室、クラフト教室等の自然学習を行っています。

一方、管理作業に若年技術者やインターンシップを出来るだけ従事させることによって高齢者やハンディキャプトの利用者から常に元気をもらっていると感謝の言葉を頂いております。



どんぐり課外授業で環境を学ぶ



未利用地をクロスカントリーコースに

## 組合の動き

### 平成22年度 第24回通常総会開催

平成22年5月21日(金)午後3時50分から当造園建設業会館において、平成22年度第24回通常総会が開催された。

司会者堤明伸理事が開会を宣し、小林稔蔵理事長の挨拶に続き、来賓の山梨県みどり自然課山縣勝美課長及び山梨県中小企業団体中央会新海一男専務理事からそれぞれご祝辞をいただいた後、議長に内田正文副理事長が選任され審議に入った。

第1号議案 平成21年度事業報告・収支決算承認の件

事務局の説明の後、名取 満監事が監査報告を行い、これを議場に諮ったところ可決承認された。

第2号議案 平成22年度事業計画・収支予算決定の件

事務局の説明の後、これを議場に諮ったところ可決決定された。

第3号議案 役員改選の件

和泉川渡理事、三井兵部理事、志村正起監事の辞任に伴い、後任役員の選出を行い、深澤勝彦理事、小野訓孝理事、佐野洋二監事が選出された。

第4号議案 総会議決事項委任の件

事務局の説明の後、これを議場に諮ったところ可決決定された。

第5号議案 その他

最後に斉藤陽一理事から閉会の挨拶があり、午後4時30分閉会した。

## 協会員・組合員めぐり

### 富士急建設株式会社

代表取締役 小俣 賢治

所在地 富士吉田市新西原5丁目2番1号

当社の創業は昭和30年7月ですが、造園部門は、昭和48年11月に富士急造苑株を吸収合併し現在に至っております。

当社の事業は、土木、建築、造園の3本柱から成り立っておりますが、造園部門も少数精鋭ながら、公共工事を始め、民間工事、個人別荘の庭園造成、管理など幅広く業務を行っております。

近年、環境問題が重視されている中で、社員一丸となって、今まで培ってきた技術と知識を生かし、公園、住宅地、別荘などの緑化造園を通じて、人と地域に密着した環境づくりに取り組んでいく所存です。



### 富士観光開発株式会社

代表取締役 志村 和也

所在地 南都留郡鳴沢村字富士山8545-4

当社は2009年度に50周年を迎え、100年企業に向けて新たな一歩を踏み出しました。富士北麓の原野に富士桜高原別荘地を造成し、富士レイクサイドカントリー倶楽部をオープンさせ、以来、お客様のニーズに合わせて事業を展開。

別荘地開発のノウハウを活かした自然環境を取り入れた「甲府リバーサイドタウン」、自然との調和をコンセプトとしたレジャー施設「ゴルフ場、スキー場、温泉施設、公園」や生活の基盤を支えるライフライン事業など日常の“暮らし”から“余暇”の充実に至るまで全てシーンでお役に立てるトータル企業を目指しています。



# 青年部の活動

## やまなしクリーンキャンペーンへの参加

実施日：平成22年7月30日 AM7:00～AM8:30  
活動場所：甲府駅北口・南口周辺  
使用資材：やまなしクリーンキャンペーンチラシ・花の種のほり旗・ゴミ袋  
参加者：山梨県森林環境部循環型社会推進課  
再資源化担当者 3名  
山梨県造園建設業協会・協同組合青年部 9名

### 活動内容：

甲府駅北口及び南口にてチラシ(県製作)と花の種3,000袋(青年部準備)を駅利用者配布しました。

平成22年名古屋で生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開催され、また猛暑などにより、環境に対する意識は高まっていると感じています。造園は建設業で唯一みどりを扱い環境や景観・美観を創造する業としての使命は大きくなっていると自覚しております。

昨年同様、花の種を配布するには2つの願いが込められています。草花の生育にはCO2の吸収を行いますので身近に環境改善に貢献出来ること。もう一つは花が咲く事により、「美しい県土づくり」の一助になることを期待いたします。



作業終了後全員で記念撮影

## 土塀・築地壁の施工講習会への参加

日時：平成22年9月25日・26日 AM8:00～PM5:00  
会場：南アルプス市 桃園  
内容：土塀の研修会の作業について

(社)日本造園組合連合会 山梨県支部主催の土塀・築地壁の施工講習会に参加しました。今回初めての体験でしたので、とても興味がありました。

工程としては、基本的な枠組みや屋根工事は大工さんが行い、下地をラス網で作成した上に、2回塗りにより仕上げる。

塗る材料は、瓦用土にワラを30mm程度に切ったもの・山砂を入れこねる。…泥遊びみたいです！

1日目は1回目として、20mm厚程度に塗り、櫛目を入れ1日目は終了。

2日目は2回目として、10mm厚で塗る、表面が少し乾いたところで、砂利等を埋め込み、洗い出して完成。というものでした。

塗る作業の基本はチリの部分をしっかりと決め、その後平面に塗っていく。左官屋さんみたいには平らには塗れませんが、造園家としてのセンスで作業することが大切であると講師から説明がありました。

造園の技術・技法としてまた庭のアクセントとして面白い題材であると感じました。



研修の風景



2回目の塗り

## 関東経済産業局 局長表彰

青年部役員で



日時：平成22年11月10日 PM1:00～  
会場：アビオ甲府  
主催：山梨県中小企業団体中央会  
内容：山梨県中小企業団体中央会55周年記念式典において、山梨県造園建設業協同組合青年部が関東経済産業局局長より表彰されました。

受賞理由として、長年にわたり活動してきた私達の功績が評価されたと思います。

これを励みにさらに青年部活動を盛り上げていきたいと思っています。

# 平成22年度組合自主事業

山梨県造園建設業協同組合は山梨県緑化センターの指定管理者として、今日まで様々な自主事業を実施し、来園者数の増加を図ってまいりました。

今後も尚一層創意工夫を重ね、県民の皆さんの期待に応えられるよう努めてまいります。

多くの県民の皆様方の暖かいご支援をお願いすると共に関係各位のご協力をいただき、管理運営の質を高め、当センターがより身近に感じいただける施設になるよう職員一同尽力してまいります。



## ●●●山梨グリーンフェア●●●

4月24日から2日間、山梨グリーンフェアを開催した。

植木市には組合加盟35社が参加。樹木・草花・鉢物・園芸資材・野菜苗等の販売を行った。

また同時開催として「お茶会」も開催され、表千家古屋園恵先生（甲斐市文化協会）が亭主を務め、協会事務局中村麗子さんが代表を務める中村麗声社中の奏でる琴の音色の中で子どもからお年寄りまでお茶を楽しんだ。

両日とも晴天に恵まれ、2日間で過去最高の7,200人の来場者を集め販わった。

## ●●●各種展示会●●●

6月18日から3日間、甲州市文化協会山野草小物盆栽部出展による「山野草展」と、昇仙峡山草会出展による「ウチョウラン展」を同時開催した。

10月29日から3日間、山梨遊心会出展による「秋を彩る盆栽展」を開催した。出展者の丹精込めて育てた作品に訪れた人は見入っていた。

平成23年1月中旬には「洋ラン展」の開催を予定している。



## ●●●緑の感謝祭●●●

10月23日から2日間、緑の感謝祭を開催した。

組合員により樹木、花、園芸資材、農産物等の販売を行った。

その他「ポニー乗馬体験」・「子供工作教室」・「もちつき大会」等も開催された。ショータイムでは、三宅太鼓演奏・フラダンス・バンド演奏・JAZZ演奏が行われ会場を盛り上げた。

同時開催として日本造園建設業協会山梨県支部による「全国造園フェスティバル2010」も行われ来園者に花の種が配られた。

県内各地から約5,000の方が来園した。

## ●●●寄せ植えコンテスト●●●

「第1回寄せ植えコンテスト」を開催した。

展示会は緑の感謝祭と同日（10月23日から2日間）行われた。

学生及び一般の方から51点の応募があり、最優秀賞以下13点の入賞作品が選ばれ、10月24日緑の感謝祭会場で表彰式を行った。

今後も、手軽に誰でも参加できるコンテストとして、定着化を図ってきたい。



## ●●●みどりの写真コンテスト●●●

「第5回みどりの写真コンテスト」を開催。6月から出品を募った。

「樹木」「私の好きな庭」「風景」の3部門で作品を募集した。

銘木、奇木、花、印象に残る庭、山梨の豊かな自然を繊細な感性で捉えた優秀な作品等、197点の応募があった。

写真家若林賢明先生を審査委員長として審査を行い、各部門の知事賞、優秀賞が決定され11月12日から14日まで展示会を開催した。

知事賞受賞作品は緑化センターに通年展示されている。

## ●●●その他研修会●●●

10月24日、「ガーデニングを学ぶ会」と称してバラ・ハーブ・宿根草の3講座を開催し、76名が参加した。その他各種4団体から依頼を受け「ガーデニング技能講習会」等を開催した。



# 平成22年度山梨県緑化センター主催事業

山梨県緑化センターは、緑の発信基地として緑の教室・緑化相談・緑サポーター養成研修等、県民の皆さんの緑に親しみ育てる意識の動向を読み取りながら様々な事業を実施し、応えてまいりました。

今後も環境に配慮した緑に関する情報を発信し、来て見て体験し楽しく学べる施設として育てていくよう努めてまいりますので、多くの皆様のご利用をお待ちしております。



## ●●●●●緑の教室●●●●●

「緑の教室」は身近な緑に親しんでいただき、緑について関心を深めてゆくとともに、緑を育てる知識を身につけていただくために年間24回開催しております。

内容も季節毎の樹木剪定技法・病虫害防除の方法・季節の花の寄せ植え等種々多様なカリキュラムを組み展開しております。受講者は年々増加し、22年度は1,000人を見込んでいます。

この教室で学んだ知識・技術を、生活の中に生かし、緑化思想の高揚に繋がることを期待しています。

## ●●●●●親子緑の集い●●●●●

森からの恵み（森林資源の有効利用）による工作等で、親子にふれあいの場を提供し、緑への親しみを深めてもらうことを目的に、みどりの募金を運営費として5回実施されました。

第1回は「県産材を使った木工作」、第2回・第3回は「木の実・木の枝を使った壁掛け」を作りました。第2回は会場を初めて緑化センターを離れ富士河口湖町（富士ビジターセンター）で開催しました。

第4回は緑化センター内の森の中でツリークライミングを体験しました。

第5回はクリスマスリースを作りました。

全5回開催で205組555名の親子が参加しました。



## ●●●●●子ども樹木博士●●●●●

近年、地球の温暖化防止、山地災害防止、水源のかん養など森林の役割が見直されている中で、森林の中で樹木に触れて名前を知ることを通じて、子供たちが森林や自然に関心を深めること、さらには子供と親とのふれあいの場を提供することを目的とし、県緑化センターと河口湖フィールドセンターを会場として2回実施されました。親子で樹木の名前や特徴を学び、最後にテストを行い成績により10級から4段までの「樹木博士認定書」が授与されます。

平成22年度は21名の子どもたちが樹木博士となりました。

## ●●●●●緑サポーター養成研修●●●●●

緑化に関心の高い県民を対象に、地域内の緑化の推進、樹木の診断を行なう者を養成するため、緑サポーター養成研修を実施しています。研修修了者には終了証書が授与されるとともに、(財)日本緑化センターに登録すると「緑サポーター」の称号が与えられます。

平成22年度は11名が緑サポーター登録しました。今後の緑普及に関する積極的な活動が期待されます。

## ●●●●●緑化相談●●●●●

県緑化センターでは樹木医2名が、県民の皆様からの緑に関する相談や質問に対応しています。

毎年800件を超える相談があり、その50%以上は病虫害に関する内容です。

また公共施設及び神社仏閣に限り、樹木医の出張診断も行なっています。

## 協 会

### ●(社)日本造園建設業協会 造園建設功労賞

当協会長齊藤陽一氏は、平成22年6月22日(火)、グランドアーク半蔵門において開催された平成22年度(社)日本造園建設業協会通常総会において造園建設功労賞を受けた。氏は、大学卒業後、富士緑化㈱(平成13年に株式会社富士グリーンテックに商号変更)に入社し、以来現在に至るまで造園業一筋に携わっており、平成15年からは同社の代表取締役社長に就任し、経営者として手腕を発揮している。

これまでに東広島運動公園野球場周辺他園地整備工事、西宮浜総合公園多目的グランド整備工事、北関東自動車道岩瀬地区造園工事、国営東京臨海広域防災公園園地整備工事、山梨県小瀬スポーツ公園陸上競技場改修工事を手がけるなど多くの優れた実績を残している。氏は、平成15年から6年間、(社)道路緑化保全協会の事業委員長を務め、平成17年4月から2年間、(社)日本造園建設業協会山梨県支部副支部長を、さらに平成19年4月には山梨県支部長に就任し現在に至っている。また、平成20年6月からは(社)日本造園建設業協会の総務委員、同年4月からは同協会関東総支部の総務委員長に就き現在に至っている。平成17年から4年間、(社)山梨県造園建設業協会の副会長を務め、平成20年4月からは、同協会の会長に推選されるなど、氏は人望も厚く、また団体の長としてよくまとめ、自ら進んで難問に取り組んで確実な成果を上げており、業界への貢献度は極めて高いものがあり、こうした実績が認められたものである。

齊藤陽一 氏  
(株)富士グリーンテック



### ●(社)日本造園建設業協会会長賞 (業績表彰)

当協会理事・事業委員会委員長依田忠氏は、平成22年6月22日(火)、グランドアーク半蔵門において開催された平成22年度(社)日本造園建設業協会通常総会において、協会会長賞(業績表彰)を受けた。

氏は、大学卒業後、㈱間組に就職したが、平成7年には、父の経営する山梨ガーデン株式会社に専務取締役として就任し、平成15年4月からは同社の代表取締役役に就任し現在に至っている。

氏はこれまで富士川クラフトパーク造園工事(平成11年)、早川オートキャンプ場植栽工事(平成12年)中央自動車道(改築)花咲地区造園工事(平成14年)長沢1号公園施設整備工事(平成15年)三郡衛生組合火葬場植栽工事(平成16年)など多くの公共・民間事業を手がけ、高い評価を受けている。

平成19年から2年間は(社)山梨県造園建設業協会事業委員会副委員長を、そして平成21年度には事業委員長に就任し、氏が中心メンバーとしてCO2削減などの環境問題に取り組み、その一環としてやまなし森づくりコミッション会長を立会人に、増穂町と森林整備の協定を締結し、「ぞうえん山梨きづかいの森」と名付けた森林の整備事業を始めるなど、造園業界の存在感を広く県民に示した、こうした貢献・功績が認められたものである。

依田 忠 氏  
山梨ガーデン㈱



### ●山梨県 環境緑化功労賞

齊藤陽一 氏  
(株)富士グリーンテック

平成22年10月8日(土)、恩賜林記念館において平成22年度山梨県林業まつり(山梨県林業まつり実行委員会(会長横内正明)主催)記念式典が開催され、この席上齊藤陽一氏が山梨県環境緑化功労賞を受けた。

氏は、大学を卒業後一貫して造園業に携わり、多くの実績を残した。平成13年には、その能力を買われて株式会社富士グリーンテックの代表取締役専務に就き、平成15年には代表取締役社長に就任し現在に至っている。この間、氏は国内の大規模園地整備工事、園庭・校庭芝生化事業等の数多くの造園工事を手がけ、その優れた技術力に裏打ちされた施工は高い評価を受けている。また、アフリカ、セネガル共和国に於いて約140万本の植林事業に取り組み話題となった林業・造園関係の各種団体の役職などを歴任し、手腕を発揮して多くの貢献と功績を残すなど、本県の緑化推進(環境緑化)に果たした功績は大きいとして表彰された。

### ●建設雇用改善優良事業所 知事表彰

(株)帯金造園  
代表取締役 帯金岩夫

平成22年度山梨県建設雇用改善推進大会が平成22年11月18日(木)、アピオ・ウェディングプラザ甲府で開催され、この席上(株)帯金造園は、建設雇用改善優良事業所として山梨県知事表彰を受けた。

当社は、法定保険制度、退職金共済制度の加入はもとより、従業員に対する労働条件の明示や法令の遵守、また安全衛生管理等々に積極的に取り組むなど、雇用改善の重要性を不断に認識している。また、雇用改善に関する講演会、講習会等に積極的に参加するなど、雇用改善への意欲・認識は会社全体として高いものがある。こうしたことが認められ表彰された。



### ●建設雇用改善優良事業所 山梨県建設産業団体連合会長表彰

(株)雲松園  
代表取締役 小林稔蔵

平成22年度山梨県建設雇用改善推進大会が平成22年11月18日(木)、アピオ・ウェディングプラザ甲府で開催され、この席上(株)雲松園は、建設雇用改善優良事業所として山梨県建設産業団体連合会長表彰を受けた。

当社は、雇用改善の重要性を不断に認識し、従業員に対する労働条件の明示や法の遵守、さらに安全衛生管理等々に積極的に取り組んでいるが、特に、雇用改善に関する講習会、講演会等にもよく出席、そうした情報をきちんと従業員にも伝えるなど、雇用改善に前向きに取り組んでいる。こうしたことが認められ表彰された。



# 表彰等

## ●造園事業功労者

平成22年5月21日(金)、当協会会議室に於いて開催された平成22年度通常総会の席上、下記2氏が「造園事業功労者」として表彰された。各氏とも、会員会社の社員として造園事業に携わっているが、その功績が顕著であり他の模範であるとして表彰された。

山本浩司氏  
㈱富士グリーンテック



横田 広氏  
㈱富士グリーンテック



## 組 合

## ●山梨県中小企業団体中央会 組合功労者

小林稔蔵氏  
㈱雲松園

小林稔蔵氏は、平成22年5月31日(月)アビオ甲府「本館」で開催された山梨県中小企業団体中央会第55回通常総会において、「組合活動に積極的に参加し、組合制度の普及と組合育成強化に尽くされ、平成21年度からは理事長として組合の組織強化と発展及び組合員の相互扶助と経済的地位の向上に努めた」功績に対して、中央会会長より組合功労者として表彰された。

## 第41回 中小企業団体親睦ゴルフコンペ 当組合が団体優勝

11月6日(土)、笛吹市「ウッドストックカントリークラブ」において、山梨県中小企業団体中央会主催の標記ゴルフコンペが、95名の参加者を得て開催された。

この大会で当組合は団体戦で優勝し、個人戦では内田正文副理事長が準優勝した。

当組合出場者：  
小林稔蔵理事長  
内田正文副理事長  
斉藤陽一理事  
深沢勝彦専務理事



## ●山梨県中小企業団体中央会 創立55周年記念式典 組合功労者

依田 忠氏  
山梨ガーデン㈱

依田忠氏は、平成22年11月10日㈶アビオ・ウェディングプラザ甲府で開催された山梨県中小企業団体中央会創立55周年式典において、「これまでの組合活動への指導育成や森林整備などのボランティア活動を通じての環境問題への主導的な取り組みなど、組合の強化発展に貢献された」ことに対し組合功労者として表彰を受けられた。

## ●山梨県中小企業団体中央会 青年部功労者

堤 明伸氏  
㈱津々美造園

堤明伸氏は、平成22年5月31日(月)アビオ甲府「本館」で開催された山梨県中小企業団体中央会第55回通常総会において、「当組合青年部長として、平成20年の目比谷公園ガーデニングショーへの出品をはじめとして各種事業や研修会を企画・開催・参加して若手技術者の育成に尽くし、また、緑化センター自主事業「山梨グリーンフェア」「緑の感謝祭」の業務責任者としての業績等」が認められ、青年部功労者として表彰を受けられた。



## ●関東経済産業局長表彰

### 組合青年部

当組合青年部は、平成22年11月10日に開催された中小企業団体中央会創立55周年記念式典において、関東経済産業局長表彰を受けた。受賞の理由は、次のとおり。

「青年部設立以来、資質向上を目的とした研修会や各種イベントに積極的に参加するとともに、独自に研修会等を企画開催し、業界を牽引する大きな力となっている。また、山梨県中小企業団体中央会を通じた異業種等との連携活動にも努力し、人的なネットワークの構築や会員の新規事業の創出にも寄与している。県主催の「やまなしくリーンキャンペーン」には、毎年参加して環境活動に取り組んでいる。また、青年部活動を組合員企業に理解してもらうために、組合員企業の若手社員等も部員として認め、幅広い人材を集めて活動している。これまでのこうした活動は優れており、他の範となるものである」

## ●山梨県知事表彰 優良組合

当組合は、平成22年11月10日に開催された中小企業団体中央会創立55周年記念式典において、「設立以来、造園工事及び植栽管理の共同受注に積極的に取り組み、大きな成果を上げてきた。特に平成16年には官公需適格組合の証明を関東経済産業局より受け共同受注体制の強化を図った。また平成19年からは山梨県緑化センターの指定管理者として効率的・かつ的確な管理・運営業務を行っており、組合事業の拡大に努めている。こうした活動は他の組合の模範となるものである」として、山梨県知事から優良組合表彰を受けた。

# 会 員 名 簿

(50音順)

会 社 名	代表者名	住 所	電話番号/FAX	E-mail/URL
(株)アセラグリーン	埴原喜久男	甲府市蓬沢町1171	(055) 233-4617 (055) 233-4633	green@acera-jp.com
(株)石原グリーン建設	石原 政人	甲府市高室町269	(055) 241-2001 (055) 241-0822	office@green21.co.jp http://www.green21.co.jp
(株)石和植木	齊藤 隆夫	笛吹市石和町川中島378	(055) 263-2070 (055) 262-4889	isawa@mbd.nifty.com
(有)今井ガーデン	今井 正行	甲府市里吉一丁目6-24	(055) 237-0027 (055) 226-8788	garden-imai.yugen@abelia.ocn.ne.jp
(株)雲松園	小林 稔蔵	北杜市小淵沢町3630	(0551) 36-2432 (0551) 36-4128	info@unshouen.co.jp http://www.unshouen.co.jp
(株)帯金造園	帯金 岩夫	甲府市池田二丁目11-12	(055) 251-4128 (055) 251-4194	office@obikane.co.jp http://www.obikane.co.jp
(有)荻野造園	荻野あさ子	甲府市伊勢四丁目1-12	(055) 235-4045 (055) 231-2020	ogino@peach.ocn.ne.jp http://www4.ocn.ne.jp/~ogino
(株)河口湖庭園	梶原 陽一	南都留郡富士河口湖町船津4940-1	(0555) 72-0635 (0555) 72-5435	yozan@kawaguchiko.ne.jp
(有)窪田造園	窪田 健司	甲斐市中下条1673	(055) 277-2111 (055) 277-8881	kubotazouen@za.wakwak.com
河野造園土木(株)	河野 富重	甲府市下飯田二丁目5-27	(055) 222-4396 (055) 222-0555	info@kzd.co.jp http://www.kzd.co.jp
甲南緑化(株)	岩田 俊彦	甲府市高室町721	(055) 241-6136 (055) 241-6135	kounan@maple.ocn.ne.jp
(株)三枝造園	三枝 正雄	富士吉田市松山1267-6	(0555) 22-1174 (0555) 22-2219	saigusazouen@r4.dion.ne.jp
三協造園(株)	八木 幸彦	西八代郡市川三郷町市川大門4796	(055) 272-6000 (055) 272-7777	mail@sankyo-ls.co.jp http://www.sankyo-ls.co.jp
(有)サンリツ造園土木	土屋 潤一	中央市若宮31-11	(055) 273-8644 (055) 273-8633	sanritsu-2006@topaz.plala.or.jp
(有)敷島緑化土木	石水 理恵	甲斐市島上条1664	(055) 277-2530 (055) 277-8311	sryokkas@cronos.ocn.ne.jp http://www15.ocn.ne.jp/~sryokkas/
(有)清水造園	清水 文一	甲府市里吉一丁目7-21	(055) 233-9748 (055) 233-9758	shimizu.z@sea.plala.or.jp
(株)芝 保	藤原 辰男	甲府市貢川本町18-20	(055) 237-7000 (055) 224-5555	shib0377@peach.ocn.ne.jp http://www3.ocn.ne.jp/~shibaho
(有)志村樹苗園	志村 好啓	甲府市緑が丘一丁目4-4	(055) 253-6983 (055) 253-6985	shimura.sdv4@rouge.plala.or.jp
(有)須田造園	須田 良英	笛吹市八代町米倉729	(055) 265-2452 (055) 265-3691	suda@arion.ocn.ne.jp http://www.land-s.co.jp
中央造園土木(株)	今村 尚人	甲府市德行一丁目9-27	(055) 226-4525 (055) 226-4573	info@chuouzouen.co.jp http://chuouzouen.co.jp
辻緑化土木(株)	辻 宏三	甲府市朝気三丁目3-16	(055) 233-9545 (055) 233-9542	info@tsuji.ecweb.jp http://www.tsuji.ecweb.jp
(株)津々美造園	堤 明伸	甲府市愛宕町146	(055) 253-2188 (055) 253-7835	tsutsumi@mx10.ttcn.ne.jp http://www.tsu2mi.com
(株)東勝緑産	内田 正文	甲州市勝沼町等々力1258-2	(0553) 44-2691 (0553) 44-3006	toukatsu@crux.ocn.ne.jp
(有)東香園	名取 満	南アルプス市十日市場1828-1	(055) 282-0970 (055) 282-0952	tou-kou@eps4.comlink.ne.jp
(株)仲村造園	仲村 清輝	北杜市明野町小笠原3838	(0551) 25-2348 (0551) 25-2439	naka-la1@aurora.ocn.ne.jp
野尻造園建設(有)	野尻 積道	韮崎市穂坂町宮久保5122-2	(0551) 22-0615 (0551) 22-2531	h-nojiri@amber.plala.or.jp
富士観光開発(株)	志村 和也	南都留郡鳴沢村字富士山8545-4	(055) 273-5753 (055) 273-4919	kensetsu@fujikanko.co.jp http://www.fuji-net.co.jp/
富士急建設(株)	小俣 賢治	富士吉田市新西原五丁目2-1	(0555) 22-7151 (0555) 22-7153	fken@fujikyuu-kensetsu.co.jp http://www.fujikyuu-kensetsu.co.jp
(株)富士グリーンテック	齊藤 陽一	甲府市富竹三丁目1-3	(055) 236-1600 (055) 224-5520	fujit@mx.mesh.ne.jp http://www.fujigreentech.jp/
(株)明桃園	小林 洋	南アルプス市桃園968	(055) 282-4128 (055) 282-4190	meitoen@khaki.plala.or.jp
山梨ガーデン(株)	依田 忠	南巨摩郡富士川町最勝寺1514	(0556) 22-4181 (0556) 22-2359	y.garden@cronos.ocn.ne.jp
(有)山宮造園	山宮 一哲	甲府市大里町3608	(055) 241-2256 (055) 241-2078	yamamiya@kvj.biglobe.ne.jp
(有)吉井造園	吉井 公人	甲斐市西八幡4044-6	(055) 276-0470 (055) 230-6322	yoshii-zouen@ag.wakwak.com